

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのふれ合いを大切にしたい理念を掲げ、運動会や行事参加を積極的に行ないながら、地域の人にも気軽に立ち寄ってもらえるような施設を念頭に置いている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、仕事始めに理念を読み、スタッフ全員が統一したケアが出来るように取り組んでいる。内容としては、スタッフと一緒に茶を飲んだり料理を作ったり、利用者の方が不安無く安心して生活出来るようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の面会時や地域の方が訪問された時は、その都度説明を行い、又、遠方の御家族には、電話で説明を行っている。	○	地域の方や家族の方が行事等の参加を通じて、利用者の思いを大切にしたい理念である事を理解していただけるように取組んで行く。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中や医院受診の際、気軽に会話したりお茶飲みに上がって下さったり、季節の野菜を持って来て下さる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(十五夜)の参加や、駅伝、運動会の応援の参加など、地域の方との交流が出来るように努めている。子供のボランティア活動の中で利用者の方とふれ合いを持ってもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で認知症に対する理解を深めてもらい、認知症で困っている方がいたら相談に応じている。スタッフの勉強も行っている。 リーダー研修を受け、認知症実践者研修の実習生の積極的な受け入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価及び外部評価を参考に認知症ケアの改善に取り組んでいる。又、その都度ミーティングを行い、勉強会を行っている。 自己評価を全職員で行い、サービス内容を再確認し改善策や振り返りをしている。	○	今後も認知症のケアの質向上に役立て運営推進会議で報告していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で取り組んでいる事例を会議の中で報告し、メンバーの方の意見をいただいている。認知症の方の思いや、環境の所は特に力を入れケアしている。実際にメンバーの方にも知ってもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡で施設の実情や部屋の空き状況、待機者の状況を伝えている。 判断がつかない時は市町村へ出向いて、指導を仰ぎスムーズな対応が出来るように取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について勉強会を行い、スタッフ全員が理解を深めるようにしている。以前経験した内容については、知り得た知識を説明したり、テキストや参考書、研修資料などで学ぶ機会をもっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも積極的に参加し、全スタッフに伝達し理解を深めている。高齢者に対する言葉使いや、態度を改め安心して過ごせるように努めている。	○	今後も研修に参加して行き、同じ人に研修参加が片寄らないように声かけをして行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際、契約書を説明し急変時の対応、医療への搬送など詳しく説明し、契約書の綴りは重要事項説明書、重度化した時の看取りの指針と同じ綴りにしている。御家族には家に持って帰ってもらい、十分理解された上でサインを頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱を設置し、利用者様方の意見を求め反映させている。日頃、利用者の方の思いや家族の要望など、深く思いがわかるように会話の機会を多くもっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者会議を定期的に行い報告し、体調の悪化様子の変化がみられた場合は、家族の方にその都度連絡をし対処している。特に健康状態については、院長との面談をその都度申し、現状の把握や今後の方向性まで理解してもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置しそれに対して原因を追及し、今後のケアの向上に努力している。家族の方と一緒に食事を食べたり、お茶を飲んだりし会話を増やし情報を得ている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや、勉強会をし職員意見を交換し話をする機会を設けている。特に勉強会については、以前より回数を増やし反映させている。リラックスした雰囲気の会話から、要望、物足りなく感じている事、不安を語ってもらう。言い難い事は、1F受付で語ってもらっている。又、クリニックでも語ってもらっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状況に応じ、勤務の話し合いをし調整を行っている。パートさんの時間帯を業務内容に合わせ、ずらしたり、半日勤務の時間は変動して、スポット勤務に当てている。職員の急な勤務変更にも応じて、密に連絡取り調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や新職員の配置は、利用者様に理解して頂き説明し紹介しているが、出来るだけ担当の変更には細かい配慮をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回のカンファレンス、他に勉強会を実施し、又、参加出来なかった方には資料配布を行い共有化している。研修参加も同じ人ばかりでなく参加してもらい、報告書を記入サインし共有化している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設より実習生が来られ、情報交換を行なっている。他の施設にも実習を行なっている。研修等で知り合った方達を通じての、交流や意見交換を行なっている。	○ 他の施設の利用者の方達と、公園にての交流を計らう予定が新型インフルで中止になったが、再検討中である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護度の高い方の入浴は、工夫し2人介助の所を3人介助で行なっている。利用者と一緒にドライブや山、畑施設外に出かけている。スタッフ間での意見交換がしやすい体制を作り、相談したりアドバイスをしたりしてストレスの軽減に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	認知症の研修参加や勉強会を随時行っており、認知症に関する本などでも情報を得ている。毎年のケアマネ受験勉強会や認知症実務者研修への参加、リーダー研修終了後、積極的に実習生の受け入れを行い、職員も常に向上心が持てるような環境作りを行なっている。職員へも実務指導のみならず、介護保険法、消防法などの法関係も少しずつ伝えている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族の方と連絡調整を行い生活歴など聞き、御家族の希望等を伺っている。入所時は、出来るだけそばに付き添い、話が出る雰囲気作りをしている。入居前には、入院先まで家族の了解を得て、御本人に会い話をしたり情報をもらっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までの経緯や生活歴を含め、家族との相談を受けている。金銭的な不安やサービス活用は、市役所と連絡調整を行なっている。入居待ちの方にも、時々連絡を入れて様子を伺ったり、現在困っている事など相談にのるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、状況に応じて話し合いをし、安心できる様対応している。 すぐに入居できない場合は、他の施設のケアマネと連絡し、御家族の方にも安心して頂けるようサービスの調整をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、御本人、御家族にホームを見学して頂き、日常生活をみて頂いている。希望する家族には、体験入所にも応じておりホームに馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事はご自分でして頂き、出来ない事は状況に合わせて支援している。利用者の方と視線を合わせ、様々な事を共有しながら生活している。利用者が日々の生活の中で、役割や楽しみを持ち御自分の存在価値を感じて頂けるように、コミュニケーションを図っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事についての情報を伝え、参加の呼びかけをしている。又、利用者に変化があった場合も、常に報告している。アルバムを作成し見て頂きながら、利用者の様子を伝えている。これからも利用者の方々を支えていく為の、より良い協力関係を築いていきたいと思っております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に参加して頂ける様お願いし、利用者の方とのふれあいを大切にしている。又、状態に応じて、ふる里訪問等も行なっている。 御家族が気兼ねなく、立ち寄って下さる環境作りをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方の思いを聞き、慣れ親しんだ場所への外出を行なっている。生活歴に基づいた内容の話を、利用者や家族との会話の中でキャッチし、思い出して頂けるように心掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルが起こらない様に、席の配置などに気をつけているが、万が一起こってしまった場合には、それぞれの意見を尊重し、決して否定しない様になっている。スタッフが間に入り、当事者の気持ちをなだめる方向へ持っていつている。個人の性格を理解し、それぞれの気持ちを配慮しながら、穏やかな日々を過ごして頂けるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されても運営推進会のメンバーに残って頂き、意見をもらい施設の反映につなげている。死亡退居された方の家族にも、年一回手紙を書き後日訪問して下さったり、途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通じて声かけし、御本人から話を伺うようにしている。話の出来ない方には、表情や身体の様子から思いを察するようになっている。又、御家族からも話を伺うようになっている。1人1人の思いや生活する上で要望を聞き、出来るだけ御本人に満足して頂けるよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族から、昔の暮らしやお仕事色々な話を伺っている。又、職員も利用者の年代(昭和初期～)に合わせた時代の勉強をしている。利用者の方と何気ない雑談の中で、色々な情報を得られるように努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の方1人1人に対して、出来る事出来ない事を理解し、出来ない事より出来る事に重点を置き、又、その日の状態に合わせた支援をしている。お手伝いや外出等無理強いをせず、御本人が気持ち良く参加して下さる状況を作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回スタッフ全員でカンファレンスを行ない、又、一回は医院とのカンファレンスをもち、ケアについての実施評価や意見交換をし、決定事項を立て介護計画に反映させている。変化のあった時は、勉強会を持ち深く利用者の方を知りケアにつなげ、再度計画立案している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネを中心に、スタッフや御家族とも話し合い、状況に応じて見直しを行なっている。毎月の見直し評価を、ケアマネ、担当者と別々に行ない情報を共有しながら、新たなケア項目を職員全員で打ち出して実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行ない、利用者様の言葉や様子、変化等を記しています。ヒヤリハットや対応策に関しては、別紙に記載して全職員が目を通す様ルール決めしており、又、外来受診時の記録は色変えをして一目で分かりやすいようにしています。排泄、食事、その他のケア状況等も、状態を把握しやすいよう一覧表にしております。統一したケアを遂行する為に、情報の共有を徹底的に行ない、それを継続していきたいと思っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内にある医院へ、状態報告及び受診を行なっています。 又、2ユニット体制を活かし、ユニット間での交流を図っています。 KPへの状況報告を怠らず、又、御家族とのコミュニケーションを図り、色々な情報をいただくよう心掛けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防に関しては、年3回避難訓練をし、その内1回は消防署に来て頂いて指導を仰いでいる。運営推進会議のメンバーや近隣の商店の方々にも、避難訓練の協力や非常出口や消火栓のある場所など案内し定期的実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーや他施設との連絡を密に取り合っ、サービスを利用しやすいよう心掛けている。他の施設で入居を待っておられる所のケアマネの方と、連絡を取り合い本人さんと面会したり、家族と連絡をとったりしながら調整を行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターの参加の呼びかけを行なっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族の意向を考慮しながら、主治医による診察や緊急時はすぐ連絡を取り、又、家族に報告を行なっている。歯科受診は、往診を受けながら治療して頂いたり、体調や介護度に応じて体制を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	若いスタッフがいるので「死生観」「Q,O,L」「ターミナル」についての勉強会を予定している。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人1人の人権を尊重した対応を、心掛けている。個人情報の重要性をスタッフが認識し勉強会を行なう事で、情報漏洩を防ぐ事が出来る。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思を尊重し、声掛けしている。うまくしゃべれない方は、表情や仕草を見て、御自身で決めて頂けるよう取り組んでいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度に関係なく、本人の意思を確認しながら買い物、散歩、野菜とりなど参加して頂いている。特に行動障害のある方の思いを聞き、訴える事が出来なくても、非言語的な部分や思いを引き出し、外出やそばに付き添ったりしてお世話をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は、園外を利用される方もいる。又、園内で可能な身だしなみの支援は、利用者の希望を尊重し、その人らしい身だしなみ、おしゃべりが出来るよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や配膳を、利用者と共にこなしている。食事の時間も職員と一緒に、同じメニューの物を摂られている。献立も利用者の方の好みを聞きながら立て、台所に立てない車椅子の方でも、切菜や下膳を手助けしながらこなしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶を飲まれない方は、ジュース類を飲んで頂いたり、ティタイム時にコーヒーやお菓子を提供している。時には、団子作りやパン作りなど、おやつの手作りを一緒に行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により、排泄のパターンを知りトイレへの声かけや、見守り、援助を行なっている。便意、尿意ない方でも、トイレで排泄を心掛けている。1人で立てない介護度5の方でも、2人の職員を組み、安全に移動、排泄が出来るようにしている。洗浄後は、蒸しタオルで拭きとって清潔保持に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴順番表を基本として、入浴を行なっているが利用者のその日の体調、状況に合わせて時間変更、日時変更を行ない、希望に沿うように行なっている。毎回入りたくないという訴えに対しては、声かけの方法を変え、スムーズに入れる方法を心掛けている。失敗する事もあるが、なぜその声掛けで駄目だったのか？など、ミーティングで話し合っケアにつなげている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々状況に応じて環境を整え、又、安心、安全に、休息したり眠ったり出来るよう支援している。眠れない時は、リビングでお茶を飲んだり、話をしたりしている。一緒に添い寝をしながら、休んで頂く場合もあつたり、気に入ったソファを準備する場合もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人個人の生活歴等から、その力を活かす役割をして頂いたり、気晴らしに園外の散歩、支援を行なっている。以前住んでいた街へ、汽車や車で出かける旅を計画したりして、楽しみ事や日常生活の活気につなげている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等の時は、買い物の支援をしたり、使いすぎたりしないよう見守り行なっている、以前から使っている財布を預かり、時々はその財布を持って出かけたたりしている。中には、おもちゃのお金で、1万2万と毎日数えられ、財布とお金を持っている事で安心感を持って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿つて、その都度、外出の機会を設けるようにしている。「外に出たい」を表現出来ない介護度の重い方でも、表情や思いをくみ取り、ドライブや車椅子散歩、ふる里訪問など行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食の機会を設け、スタッフ、利用者の家族一緒に食事を楽しんだり、普段なかなか行けない所への、外出支援を行なっている。 ふる里訪問や日南線で昔の時代を懐かしんでもらつた。子供の頃、住んでいた街並や海岸、以前父親が勤めていた病院跡を、ドライブしながら行つた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各部屋に電話は設置されており、外線の際はすぐに、家族の方と話ができるようにしている。担当が中心となって、利用者の方と共に年賀状を書いたりしている。時には、写真を添えた手紙も、利用者の方と共に郵送している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外来患者の方や知人の方達に気軽に立ち寄って、お茶を飲んで頂いたり、つわの皮むきや団子作りを行ない、一緒に楽しい時間を過ごして頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、ベッドから転落防止の為に、家族同意の許、1名はベッド柵を利用されている。身体拘束委員会やカンファレンス、勉強会の中で、身体拘束をしないケア、具体的な方法を話し合っている。例えば、クッションを利用したり、バスタオルで臀部をひっかかないような物を、手作りしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は24H開錠しており、玄関は夜間帯施錠している。外出や帰宅願望が出た時には、引き止めたり、中止するのではなく、一緒に外出し話しながら歩いている。鍵をかけない自由な生活を援助している。帰宅願望のある方には、利用者の思いに沿って、スタッフは付いて行きコミュニケーションを図っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	随時、職員が利用者の在宅確認を行ない、安心して過ごせるように気配りを行なっている。夜間帯は2時間おきに巡視し、様子確認を行なっている。状態が気になる方には、巡視回数を増やしている。常に仕草や言動に注意し、職員と一緒に行動している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決めて、必要な時に使用できるようにしている。洗剤、刃物、漂白剤は目の届かない所、手の届かない所、手の届きにくい所に、保管場所を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される危険性を、ミーティングやカンファレンスで話し合い、再度見直ししている。例えば、ベッドからの転落の危険性がある方には、ベッドの高さ調節や床にマットを敷いたりしている。ヒヤリ報告があった場合は、職員全員に回覧し認識してもらい、事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網を作成し、わかる場所に貼っている。吸引器も、所定の場所に置いてある。急変時は、院長、NS、管理者、責任者への対応がスムーズにあわてないように、電話にワンプッシュで登録してある。「何を」報告するか、職員に暗記してもらう(緊急時にパニックになった場合を想定して)		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間行事において、避難訓練や防災訓練を行なっている。消火器や消火栓の使用法、避難場所の確認をしている。職員全員に防火管理者資格を取得させて、1人1人の危機意識に温度差が出ないよう方向を目指している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会に来られた時や、担当者会議で説明している。状態変動時は、御家族に連絡している。抑制ベルトやベッド柵を希望される家族がいても、自由な動きを抑制する事無く、丁寧に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、検温、血圧、脈拍測定を行ないケアチェック表に記録すると共に、顔色様子観察を行ない、異常があった際には、即、責任者、管理者、クリニックへ報告し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった際には、オンコールNSより、指導、助言を受け、各自、薬情報を熟読し理解に努めている。又、服薬時には、声に出し名前の確認を行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝「きなこ牛乳」を飲んで頂き、水分、適度な運動に心掛けている。又、オムツ使用の方でも、便座に座って頂く事で排便を促すようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きができる方は、声かけによりして頂いています。又、自力で出来ない方は、毎食後、義歯洗浄、一日一回タフデントを使用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者1人1人の既往歴、嗜好品を把握しメニューを考え、又、メニュー表を作成する事で、栄養のバランスを整えられるよう心掛けている。食間には、ティタイムをもうけ、寝たきりの方も居室にて水分を摂って頂いている。各ユニットの食事を1人分交換して、互いに批評するようにしている。あくまで入居者になったつもりで批評するよう心掛けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルを作成している。又、インフルエンザ、ノロウイルスなど勉強会を行なう事で、スタッフ間の危機意識を高め、各自手洗い、うがいを実行している。又、スタッフ全員、出勤時には必ず検温し自己の健康管理にも努めている。正しい手洗い方法を習得しているか、リーダーが1人1人の手洗い法をチェックしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機を使用し、まな板、包丁は一日の終了後、ハイター消毒している。又、肉用、野菜用別々にまな板を分け使用している。 週一回の冷蔵庫清掃にて、食品チェックを行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場横に“松風の里”の看板を建てている。玄関前に木造テーブルを設置し、又、観葉植物、植木鉢も置き雰囲気作りを行なっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、ローカに季節に応じた壁紙を作成し、外出先での写真を掲載している。又、花や観葉植物を置き、和やかな空間作りに心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファをを設置し、好きな時に過ごして頂けるようにしている。又、テーブルの席位置を工夫し、お互いに気持ちよく過ごせるよう、その都度、変更考慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、外出先での写真を貼ったりしている。又、タンスを使用したり、棚にはカーテンをつけ、落ち着ける生活環境作りに心掛けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、空気の入替えを行ない、一回/月クリーンライザー使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカ、浴室、トイレに手すりを設置し、又、ベッドの位置を工夫しすぐトイレへ行けるようにしている。個々に応じての、リハビリ訓練もケアプランに入れ実施している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各自の身体機能、生活レベルを把握し、その日の体調に応じて、苦にならないよう注意し、又、以前の生活歴より、本人の能力(職業)を生かせるようなお手伝いを頂いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに鉢を置き、季節の野菜を育て簡単な家庭菜園を楽しんで頂き、収穫する喜びも感じて頂けるよう心掛けている。 玄関先には、いつでも休憩出来るように椅子を置いている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

尿意便意ない方、介護度の重い方でもトイレで排泄を続けており、排泄のコントロールを行なっている。
同敷地内に医院があり主治医やNSとの連絡、オンコールNSとの連携を行ない、月1回のカンファレンスは医院のスタッフと施設のスタッフを交えて利用者の様子～主治医の治療方針、又、認知症については定期的に長谷川式スケール、MMSEを実施し、行動面と合わせて認知症の進行防止に努めている。
不穏状態のある方に対して、カンファレンスを通してケア方針をスタッフが見極め、利用者の真の思いをくみ取り、淋しい時には寄り添ってリビングで過ごしたり、ソファベッドを利用したりと思いをくみ取っている。認知症の進行防止については、グループワークや生活面で活性化を図り、昨年より公文療法を取り入れ生活に変化をつけている。